

# 日本の工業高校に進学するぞ！ ネパールカトマンズ中学生の挑戦

東京都立六郷工科高等学校 オートモビル工学科3年次生 サキヤ・アシス

## 1. はじめに

私は4年前にネパールのカトマンズからものづくりを学びたい一心で両親が働く東京に来た。



図1 カトマンズの仏塔

本稿では私が何故日本の工業高校進学を目指したのか、当時の自身の考えを述べることから始め、六郷工科高校での3年間のチャレンジを振り返ってみたい。更に現時点での卒業後の夢を語りたい。

## 2. 小さい頃の夢（カトマンズ時代）

私は小さい頃から人々の命を救う医者か、人々の生活を幸せにするエンジニアになりたいと思っていた。しかし、成長段階で血液を見ると気分が悪くなり、生理的に体が拒絶反応を示すことに気付き医者を諦め、人々の暮らしを楽にするものをつくるエンジニアになり、起業家を目指すことにした。

## 3. エンジニアを目指す高校進学

私は小学生の時からサボることが嫌いな性格だった。どんなに嫌いな友達がいっても、説明が下手な先生の授業であっても我慢して必ず学校に行き授業を受ける小中学時代だった。当時は現在のようにインターネットに繋がるスマートフォンやパソコンは無かったので、分からないことを自分で調べることは簡単ではなかった。そのため、全科目を教えてもらえる塾に通っていた。

私はエンジニアになる夢を実現するために高校進学を目指し、カトマンズの中学卒業後、市内にある普通高校（人気の市内上位校）を受験したが合格できなかった。

ネパールの高校は日本と異なり修業年限は2年間である。受験した普通高校では物理科、経営科、人文学科、商業科などを選択できる。自分が選択した科目によって勉強する専門が異なる。

将来エンジニアになるためには物理、化学、数学の知識が必要なため、物理科を選び受験した。この高校の特徴は、優れた教員（どんな難問でも丁寧に生徒に解説できる指導技術に長けた先生）が配置されていること、スクールバスで遠隔地からも通学できることである。更に校内のルールも厳しく、例えば、授業をサボったら特別指導、毎朝身だしなみ検査、スマート

フォン等，学校で使わない物の持ち込み禁止など，規則は厳しいがカトマンズでは人気上位校である。

ネパールには普通高校，総合学科高校は沢山あるが，日本のような工業高校は無い。早いうちにエンジニアの勉強がしたいと考えても普通高校に進学するしかないため，私は普通高校の物理科を受験してエンジニアの道に近づこうと考えていた。

ネパールでは希望する普通高校の物理科には入れなかったが，どうしても高校で自動車のことを学びたかった。そして将来のことも考え海外の高校を調べてみることにした。

日本の高校では何が学べるのかインターネットで調べたり，加えて東京に居る両親から日本の高校について様々な情報を入手したりした。その結果，日本には専門の勉強ができる工業高校があることを知り，日本の工業高校に進学することを決めた。

#### 4. 六郷工科高校進学を決めた理由

初来日から1年間は，多文化共生センターで日本語と日本で暮らす作法を学び，工業高校受験に備えることにした。

多文化共生センターの特徴として，前期は，1日中日本語の単語，語句，文法，文章を理解する勉強とひらがな，カタカナ，漢字の読み書きの練習をして，日本語が話せるようにする。後期は，高校の入学試験に合格するため，午前中は日本語の勉強を，午後からは中学レベルの数学，英語，物理，日本史，地理などを基礎から復習する。そして，面接の練習も実施する。

多文化共生センターで学習したことを，毎日3時間以上家で復習し，これだけでは十分ではないと感じて，インターネットを使って，リスニングとスピーキングも毎日練習した。休みの日は，楽しみながら日本語の練習をするためにアニメとドラマを字幕で見て，新しい単語と言

葉の使い方を学習した。

学校では，昼休みに先生達と日本語を使って会話し，先生が話すことを理解しようと努力を重ねた。1年間はあるという間に過ぎ，高校受験の時期になっていた。

在京外国人生徒を募集する都立高校は7校あったが普通高校が多く，私が進学したい自動車学べる工業高校は，オートモビル工学科のある都立六郷工科高校1校だけであった。



図2 自動車実習用(トヨタ86)

迷わず第1希望は六郷工科高校に決め，学校説明会等に参加し，学校を実際に見て，進学の見込みが確かなものとなった。

見学で気に入ったのが，マニュアル車とオートマチック車の両方が学べること，二人乗りのスポーツカー(トヨタ86)3台を実習でいじれること，二つのコース(整備と製作)があって好きなコースを選べること，製作を選択すれば，2年次から好きな専門科目を選べること，実習室に車をいじるために必要な工具や測定機材，先端的な実習機器が設置されていること，2年次には地域企業で生徒全員がインターンシップ体験をできること，そして自宅から通いやすいことなどであった。

#### 5. 高校3年間の成果とこれからの課題

受験に際して在留資格証明書やネパールの中学校卒業証明書など様々な書類提出を求められ，事務手続きが大変だったが，頑張った甲斐あって自分が勉強したい六郷工科高校のオート

mobil工学科に入学することができ、とても嬉しかった。

初めて日本の高校へ通ったので、学校に慣れるまで半年位かかった。1年次はテストで良い点数も取れなかったし、成績もあまり良くなかったのを覚えている。段々学校生活に慣れて勉強する方法も分かってきた頃から友達も沢山出来た。はじめは、先生達が話す内容を聞き取れなかったら、分からないままにしておいたが、これは良くないと感じてからは、頑張っ先生達が話す言葉を聞き取り、意味のわからない言葉をメモして、休憩時間に調べたり、それでも意味のわからない言葉があると友達や日本語理解の先生達に聞くようにしたりして、自分を変えていった。

放課後の日本語理解の授業を受けなければならぬ為に部活動に入れなかったのは残念だったが、放課後の日本語理解の授業は高校生活を充実させるために非常に役に立っている。日本語理解の先生達の教え方も分かりやすいし、苦手なところがあれば、プリントを渡して過去問題等を復習させてくれるので、練習をして解けるようになるチャンスが多い。日本語の70分の授業では、35分間、漢字の練習をしたり、テストして次のステップに入ったりする。次の35分は教科書やプリントを使って新しい単語、語句、文法を学ぶ。そのおかげで日本語検定3級に合格することができた。

2年次は学校生活にも慣れ、成績も良くなってきた。3年間の高校生活では、2年次の1年間で、一番楽しくて様々な経験ができたと思っている。

人生で初めて日本企業で3日間のインターンシップを体験したり、台湾修学旅行へ行ったり、企業連携教育成果発表会や工業科生徒研究成果発表大会で200人～1500人の聴衆を前にインターンシップ体験で学んだことを発表して、特別賞を受賞するなど貴重な経験を重ねた。

インターンシップでは、私が今まで見たこともない機械を使ってみることができ、会社員になってからやるべきこと、挨拶と話しを聞くことが大切だということ、お客様の物を大事にすることを学び、更に、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の徹底、作業している時、機械を動かす時、相手に知らせること、点検作業をする時、はっきり大きな声を出して、しっかり指差し確認すること、全員とコミュニケーションをとることなど、日本のものづくりの原点となる多くの事を学んだ。

3月末には全国工業高等学校長協会の佐々木哲理事長から東京都の工業高校生で唯一人、優秀生徒表彰も受賞した。

また、日頃の学習姿勢が学校から評価され、学校のパンフレットに自分の写真と意見が載せられた時、良かったと嬉しい気持ちになったことを覚えている。



図3 在京外国人選考のパンフレット

加えて、海外修学旅行のおかげで日本以外の海外、台湾に行くことが出来、その文化、料理、学校の雰囲気、生徒の様子などを知ることができた。

3年次に入りコロナ禍の影響で学校に通えない日々が2か月程続いたが、現在大学進学に向

けて日々勉学に励んでいる。

日本では色々なことを学べる大学が沢山あるが、その中でも私は、工学部機械工学科で材料力学、熱力学、流体力学、機械力学と数学を深く学びたい。

大学入学後も成績優秀者になるため一所懸命勉強したい。私は流体力学に強い興味・関心があるので流体工学研究室に入り、自然が創り出す、人間にとって脅威となる台風や洪水が自動車に与える影響について研究し、自然災害から身を守る自動車開発に役立てたいと考えている。

大学には沢山の学部があるので、私と別なことに興味を持っている、様々な学生がいることと思う。私は知識を得ることが好きなので他の学部生と友達になり互いに知識を共有しながら、学生生活を過ごしたい。

また、大学は高校より何倍も広範囲な地域から学生が集まり、国内のみならず海外からも来る学生も沢山いるので、仲良くして新しい文化と言葉も学んでいきたい。

そのことで将来、外国での仕事や旅行の際に礼節を弁えて言動できると考える。そのためにも、私はできるだけ、多くの国籍の学生と広く交流して人脈を広げたい。

これが私の今後の課題である。

卒業まで残り半年の六郷工科高校での学校生活を大事に過ごしていきたい。

## 6. おわりに

私はチャレンジこそが人生を豊かにする原動力と考えている。4年前にネパールから日本の

都立六郷工科高校入学にチャレンジしたことが今の私を創り、これから先の私の未来に繋がっている。

入学後もチャレンジを続け、高校在学2年半の間に日本語能力検定3級、漢字検定5級、英語検定2級に合格した。卒業までの残り半年で日本語能力検定2級と英語検定1級取得にも果敢にチャレンジしていきたい。

私はネパールの中学校で英語を学び外国人と英語で会話するのに不自由の無い能力を身に付けた。そして現在は日本語を学び、日常生活では不自由しない能力を身に付けることができた。今、私が得意とするのは英語と日本語の切り替えが上手くできることである。これに母国語のネパール語を併せると三か国語を使えることになる。この言語能力を活かし大学進学後はさらに多くの人脈を創りたい。そして将来は、エンジニア起業家として、世界の仲間と自動車に関する様々な新技術を開発する企業を立ち上げる夢が心の中に大きく膨らんでいる。

これからやりたいことは、車に関する様々な最新技術を大学で学び、世界中の人々を幸せにする技術を開発・社会実装することである。私は是非やり遂げたい。

日本のものづくりを支える、日本にしかない工業高校は私にこのような夢と希望を与えてくれる素晴らしい学校である。

私が在籍する東京都立六郷工科高校と、私をこれまで導いてくれた佐々木哲校長先生をはじめ全ての人々に感謝申し上げ、本稿の締め括りとする。

最後までお読み頂きありがとうございます。

工業教育資料 通巻第 394号  
(11月号)

2020年11月5日 印刷  
2020年11月10日 発行  
印刷所 株式会社インフォレスト

©  実教出版株式会社

代表者 小田良次

〒102 東京都千代田区五番町5番地  
- 8377 電話 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>